

第5期多摩区区民会議報告書（概要版）

平成26年7月にスタートした第5期多摩区区民会議では、様々な地域課題の中から、地域コミュニティについて考える「人・まち・わづくり部会」、地域の魅力発掘・発信について考える「多摩区の魅力いきいき部会」の2つの専門部会を設置して、それぞれ課題の解決に向けた調査審議を進めてきました。

調査審議の結果、次の提言をまとめました。

●第5期多摩区区民会議提言●

人・まち・わづくり部会

＜審議テーマ：日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる＞

提言① キャッチコピーは「命を守る“向こう三軒両隣”」

いざという時に、自分や家族の命を守るために、日頃から地域での顔の見える関係づくりが大切であることを多くの人に伝えるためのキャッチコピーを考えました。

提言② 区民の参加による“向こう三軒両隣”のPRパンフレット作成

“向こう三軒両隣”の意味や大切さについて分かりやすく伝えるためのパンフレットを、区民の参加を求めて作成し、PR活動を展開します。

多摩区の魅力いきいき部会

＜審議テーマ：多摩区の魅力を掘り起こし発信する＞

提言① 映像(動画)投稿・発信プラットフォームの設置

多摩区の魅力を捉えた映像（動画）を区民が自ら広く発信できるように、インターネット上に、その活動の拠点となる場所（＝プラットフォーム）を設置します。

提言② プラットフォームの活用の仕掛け

積極的な投稿を促すとともに、できるだけ質の高い映像作品を投稿してもらうため、コンテストの開催などの仕掛けを組み合わせていくことが有効と考えられます。

提言③ プラットフォームの効果的な運営

区民参加による実行委員会などを立ち上げてプラットフォームを運営することにより、区民にとって身近な参加しやすい場所にしていくことが考えられます。

■日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる

(「人・まち・わづくり部会」調査審議報告)

1. 審議の方向性とテーマ

「人・組織・地域のつながりづくり」を仮のテーマとして設定し、地域コミュニティについて考えていくこととしましたが、地域コミュニティの活性化と防災・減災の取組は密接に関連すると考え、「防災活動を通じたコミュニティづくり」を審議の方向性としてしました。

かりがね台自治会本多会長を招いての勉強会(H27/3/18)を開催するなど、調査審議を進めるうちに、防災や減災のためには、良好な地域コミュニティの醸成が必要不可欠であり、むしろ住民をつなぐための日頃からの取組、特に住民同士の顔の見える関係づくりに焦点を当てて考えていくこととしました



審議テーマ：日頃の住民をつなぐ取組が減災につながる

2. 調査審議経過

(1) 「日頃の住民をつなぐ取組」について知る

どのようにして住民同士が顔の見える関係をつくれるかを考えるため、次の調査等を行いました。

①町内会・自治会ヒアリング（実施期間：H27/8/25～H27/11/18）

長沢自治会(8/25)、宿河原町会(9/10)、生田団地自治会(10/22)、登戸台和町会(11/13)、大作自治会(11/18)

ヒアリングを通じて、町内会・自治会では、「住民同士の顔の見える関係づくり」に資する様々な取組が行われていることを改めて確認することができました。

②区民会議カフェ（区民会議フォーラム(H27/11/3開催)の意見交換）

近隣の人と顔見知りになる上で困っていることや、意識して行っていることについて意見交換しました。顔見知りになる機会の少なさや、アプローチの難しさについての意見が多く出された一方で、日頃のあいさつや地域の活動への参加を心掛けているという意見もありました。

③町内会・自治会への加入に関するシール投票（区民会議フォーラム(H27/11/3開催)で実施）

会場となった生田緑地を訪れた人に、町内会・自治会への加入理由、加入していない理由を聞くシール投票を行いました。入っていない理由として最も多かったのが、「ア. きっかけがないから」の38%、次いで「エ. 知らないから」の31%となり、区民会議カフェでの意見とも共通した傾向が見られました。

(2) 提言のとりまとめに向けた考え方の整理

(1)で行った調査などからは、社会や地域住民の価値観の多様化を反映している側面も見られます。

一方、いざという時に自分や家族の命を守るためには、「自助」だけでは限界があり、まずは地域の最小単位とも言える「向こう三軒両隣」での助け合いが必要になると部会では考えました。そのためには、「向こう三軒両隣」とあいさつだけでも交わせる関係が地域の中で数多くつくられること、また、たとえそのような関係がつくられなくとも、その大切さをできるだけ多くの区民に知ってもらうことが重要ではないかと考えました。

3. 「人・まち・わづくり部会」からの提言

～いざという時に、大切な命を守るための顔の見える関係づくり～

提言

①キャッチコピーは「命を守る“向こう三軒両隣(※)”」

②区民の参加による“向こう三軒両隣”のPRパンフレット作成

※向こう三軒両隣

自分の家の向かい側の3軒と左右の2軒の家。親しく
交際する近くの家。



1. 提言の考え方

- ・いざという時（災害時）に自分や家族の命を守るためには、自助努力だけでは限界があり、地域（町内会・自治会くらいの範囲）や近隣（向こう三軒両隣くらいの範囲）で助け合うことも重要です。そのため、日頃から“向こう三軒両隣”と顔見知りの関係をつくっておくことが大切です。

2. 提言の具体的な内容

提言①

キャッチコピーは「命を守る“向こう三軒両隣”」

- ・災害時などに自分や家族の命を守るために、地域における顔の見える関係づくりが大切であることについて区民に広くPRするために、多くの人の目を引くであろうキャッチコピーを考えました。
- ・このキャッチコピーを、区が発行する広報紙（市政だより区版等）や、区が作成するチラシ・パンフレット等に積極的に掲載します。合わせて、区内の町内会・自治会や、区内で活動する市民活動団体等にも活用を呼び掛けます。

提言②

区民の参加による“向こう三軒両隣”のPRパンフレット作成

- ・“向こう三軒両隣”の大切さについて、その効用（いざという時に命を守る）を示して周知するとともに、その関係の上手なつくり方を示したパンフレットを作成し、PR活動を展開します。
- ・パンフレットの作成、その後のPR活動の展開にあたっては、広く区民から参加を募って検討委員会をつくるのが考えられます。コミュニティについては、世代によって価値観や考え方に違いがあることも考えられることから、できるだけ幅広い世代の参加や、新旧住民、短期間の在住が想定されるアパート住まいの学生など、さまざまな人が参加することが望めます。



■多摩区の魅力を掘り起こし発信する

(「多摩区の魅力いきいき部会」調査審議報告)

1. 審議の方向性とテーマ

「来訪者が魅力を感じるだけでなく、住んでいる人がその魅力を再認識し、改めて心地よいと感じるまにするためにはどうしたら良いかを考える」ことを、調査審議を進める上での基本の考え方としました。それを踏まえ、いくつかの方向性の案の中から、審議テーマの絞り込みを行いました。



審議テーマ：多摩区の魅力を掘り起こし発信する

2. 調査審議経過

(1) 魅力の掘り起こしと発信方法の検討

これまでも多摩区の魅力を紹介する印刷物は、数多く作られています。多くの人に手に取ってもらうことは難しく、なかなか広がらない状況にありました。しかし、近年の映像技術やインターネット技術の発展により、多くの人々が動画に触れる機会が増えています。そこで、映像（動画）を使ったPRの仕組みを検討することとしました。

(2) 課題とその解決方法の検討

①PR動画を誰に制作してもらうか

プロまたはプロに近い人、映像制作に興味がある人が望ましい。インセンティブ(動機付け)が必要。

②どうやって制作者を見つけるか

川崎市内にいるプロまたはプロに近い人を探して依頼する、制作者が自分の作品を投稿できる環境をつくる(SNS※の活用等)、映像コンテスト等の開催により、制作者に応募してもらう など

③望ましいPR動画の長さ(飽きずに見られる時間)

15秒～30秒程度が基本(長くても1分程度)

④どのように多くの人に見てもらうか

市政情報を流す市内の大型ビジョンやSNS等の活用を検討

将来的には、企業等と連携できるとよい。(電車の車内モニターで流してもらうなど)

※SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)インターネット上の交流を通して社会的なつながりを構築するサービス(フェイスブックやミクシィなどの種類がある。)

(3) 「多摩区の魅力資源」について知る

映像のテーマとなり得る多摩区の魅力資源について検討しました。また、区民会議フォーラム(H27/11/3開催)でも、区民会議カフェ(意見交換会)やシール投票で多摩区の魅力について区民に意見を聞きました。生田緑地をはじめとする豊かな自然に関する意見等が目立ちましたが、ほかにも教育・文化施設や歴史・伝統芸能に関するものなど、多摩区には数多くの魅力資源があることが改めて確認できました。

3. 「多摩区の魅力いきいき部会」からの提言

～映像(動画)の活用による魅力の掘り起こしと発信の仕掛けづくり～

提言 ① **映像(動画)投稿・発信プラットフォームの設置**

② **プラットフォームの活用の仕掛け**

③ **プラットフォームの効果的な運営**

※プラットフォーム

ここでは、「情報の発信者や受け手が集い、その上で様々な活動を展開していくことができる場所で、インターネット上に設置されるもの」を指します。

1. 提言の背景・考え方

- ・IT技術の発達によって、一度に多くの情報伝達が可能な動画による情報発信は急速な拡がりを見せています。そこで、動画を効果的に活用し、あらためて多摩区の魅力を掘り起こし、広く発信していくための取組を提案します。

2. 提言の具体的な内容

提言① **映像(動画)投稿・発信プラットフォームの設置**

- ・近年急速に普及しているフェイスブックをはじめとしたSNSを活用し、映像(動画)投稿・発信プラットフォームを設置することを提案します。区民自身が情報の発信者となり、多くの区民とそれを共有する環境を整備することができます。

提言② **プラットフォームの活用の仕掛け**

- ・SNSを活用したプラットフォームのメリットを活かしつつ、デメリットを極力抑えるためには、プラットフォームの適切な運用を促すための方針や投稿ルールを明確にする必要があります。
- ・その上で積極的な投稿を促すとともに、できるだけ質の高い映像作品を投稿してもらうため、コンテストの開催などの仕掛けを組み合わせることが有効と考えられます。

提言③ **プラットフォームの効果的な運営**

- ・区民にとって身近で、かつ魅力映像を投稿しやすくするために、区民参加によるプラットフォームの運営が望ましいと考えられます。区民の参加と協働による主体的な関わりを促すため、プラットフォームを運営する実行委員会などを設置することが考えられます。

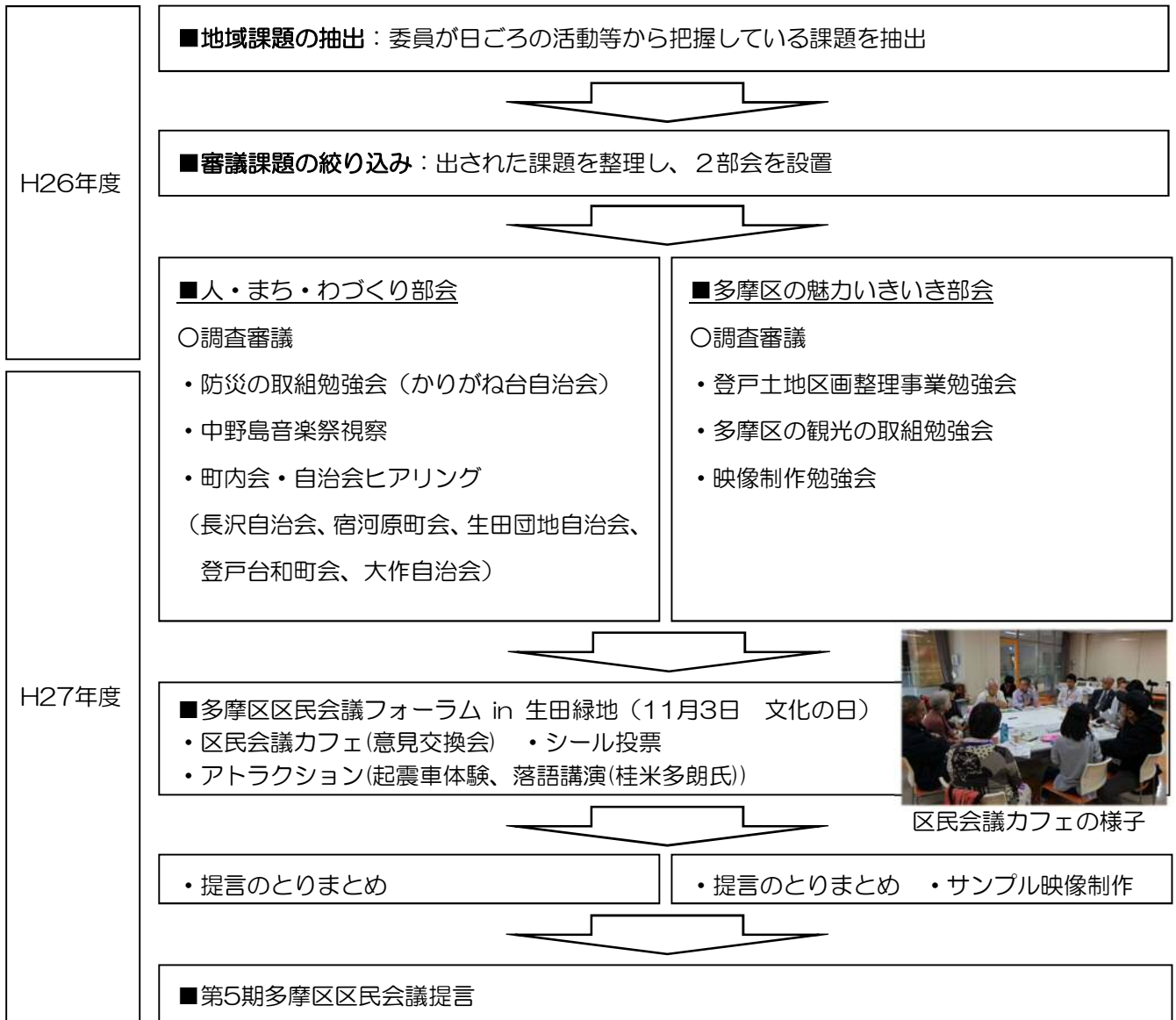
多摩区の魅力サンプル映像制作

多摩区の魅力を紹介するサンプル映像を制作しました。“生田緑地”を題材とし、外国人の目線を使うことにより、新たな生田緑地の魅力を引きだし、区民にも、外国人にもそれをアピールするものとなりました。



※制作した映像をご覧ください。右上のQRコードから、または“私たちが暮らす街「多摩区」”で検索してください。

第5期多摩区区民会議の審議の流れ



第5期多摩区区民会議委員名簿

◎委員長 ○副委員長 ☆部会長 ★副部会長

氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
○安陪 修司	多摩区の魅力いきいき部会	多摩区商店街連合会
荒井 精一	多摩区の魅力いきいき部会	市民公募
◎石橋 吉章	人・まち・わづくり部会	区長推薦
岩野 正行	多摩区の魅力いきいき部会	多摩区観光協会
★国保 久光	人・まち・わづくり部会	川崎市医師会多摩区医師会
☆小塚 千津子	人・まち・わづくり部会	多摩区子ども総合支援連携会議
近藤 清	人・まち・わづくり部会	多摩区自主防災組織連絡協議会
末吉 一夫	人・まち・わづくり部会	多摩区町会連合会
☆杉下 祿郎	多摩区の魅力いきいき部会	市民公募
高橋 謙一	人・まち・わづくり部会	多摩区・3大学連携協議会

氏名	部会	推薦団体 及び 活動団体
田澤 祐信	多摩区の魅力いきいき部会	多摩防犯協会
辻野 勝行	多摩区の魅力いきいき部会	多摩区まちづくり協議会
○戸高 仁子	人・まち・わづくり部会	かわさきかえるプロジェクト
配島 裕美	人・まち・わづくり部会	多摩区地域教育会議
原田 弘	人・まち・わづくり部会	多摩交通安全協会
藤原 司	多摩区の魅力いきいき部会	川崎市多摩区社会福祉協議会
細埜 隆己	多摩区の魅力いきいき部会	登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会
★矢野 久喜	多摩区の魅力いきいき部会	市民公募
山下 宏子	多摩区の魅力いきいき部会	市民公募
余湖 英子	多摩区の魅力いきいき部会	多摩区文化協会

【多摩区区民会議参与】

市議会議員：井口真美 河野ゆかり 斉藤隆司 菅原進 露木明美 橋本勝 廣田健一 三宅隆介 吉沢章子

県議会議員：青山圭一 土井りゅうすけ